こんにちは 新社会党です

東京都中央区日本橋富沢町7-9京桜興産ビル3階 TEL 03-5643-6002 FAX 03-3639-0150

週刊新社会

2011年10月号

発行所：新社会党 発行者：松枝佳宏
〒103-0006 東京都中央区日本橋富沢町7-9 京桜興産ビル3F
TEL 03 (5643) 6002 FAX 03 (3639) 0150
振替 00140-0-149727 1ヵ月600円 100円 1部150円 千円

http://www.sinsyakai.or.jp E-mail:horibu@sinsyakai.or.jp

停止中の原発再稼働ノー！ 野田内閣は原発推進政策をやめろ！

作家の大江健三郎さんら9名が呼びかけた「9・19脱原発集会」は6万人が参加し、盛況のうちに終わりました。福島第一原発事故後、脱原発の流れが全国各地に広がっています。この力で全原発54基の再稼働をくい止めましょう。

来春までに11基 再稼働可能に

原発は稼働13カ月で点検のため停止します。福島第一原発の重大事故後、全国の原発は次々に停止し、現在稼働中の原発は11基です。しかし10月26日の関西電力高浜原発2号機をはじめ、来年の3月9日までに11基が定期点検を終え稼働可能となります。

野田首相は9月22日、国連総会で演説し、来春以降の原発再稼働、海外への原発輸出を表明しました。原発事故が未だ収束しない中、世界に向けて原発推進を表明し、日本の厚顔無恥をさらけ出しています。

また関西電力の八木誠会長は藤村修官房長官に2月以降の原発再稼働を要請するなど、原発推進派の巻き返しが強まっています。

政府は、アリのバイ的なストレステストで原発再稼働に突き進もうとしています。現に、北海道電力泊原発3号機は「再稼働ではない」とごまかし、8月に運転再開を強行しました。

再稼働反対の 声と署名を

来年4月には全原発を停止させましょう。そのため

再稼働可能年月	原発名
2011年11月	■ 関西電力高浜2号機
同年 12月	■ 九州電力玄海1号機 ■ 関西電力大飯2号機 ■ 関西電力美浜2号機 ■ 九州電力玄海4号機
2012年 1月	■ 四国電力2号機 ■ 伊方2号機 ■ 中国電力島根2号機
同年 2月	■ 関西電力高浜3号機
同年 3月	■ 東京電力柏崎刈羽5号機
同年 4月	■ 東京電力柏崎刈羽6号機 ■ 北海道電力泊3号機

に、まず11基の原発を定期検査後も稼働させないことです。原発再稼働を止める決め手は、原発立地や周辺の自治体ははっきり「再稼働ノー」と意思表示することです。そのためには自治体や電力会社に対し、「原発再稼働ノー」と声をあげることです。

また、来年3月まで、1000万人署名運動が続いています。原発を止める時は今しかありません。原発推進政策をやめさせ、エネルギー政策の根本的な転換を求める1000万人署名運動にご参加ください。

政府・東電は Fukushima の声を聞け

「なぜこんなに辛い目に遭わなければならぬのか。これほどの事故が起きて、どうしてまた原発再開を目指すのか。私には全く分かりません」(福島の子供中学生の発言)。

政府は放射能汚染に苦しみ、悩む福島の子どもたちや県民の切実な声を聞く耳を持っていないようです。国と自治体は挙げて除染計画を発表し、東電は雀の涙の損害賠償手続きを開始しました。しかし、除染も損害賠償も「原発稼働の継続」を大前提に行われ、そこに疑問をはさむ余地はないと言わなければなりません。

下に紹介するのは、9月19日に開催された「さようなら原発」6万人集会で、福島を代表して訴えた武藤類子さんの叫び(要旨)です。

ふくしまを忘れないで、手をつないで。朗らかに生き延びよう

3月11日以来、福島県民に暖かい手を出してつないでください。皆さんにお礼を申し上げます。この事故によつて、大きな荷物を背負わされた子どもたちに心から謝りたい、本当にごめんなさい。

福島はとても美しいところです。紺碧の太平洋、果物の宝庫、金色の稲穂、水は清らかな私たちの故郷に放射能が降り注ぎ、大混乱に陥りました。

安全キャンペーンと不安のはざ間で引き裂かれた地域、家庭、学校でどれだけ悩んだことでしょう。毎日、見える・見えない、食べる・食べない、耕す・耕さない、洗濯物を干す・干さないと苦渋の選択を迫られました。

国は事実を隠していました。放

射能のゴミは残り、私たちは捨てられました。深い溜息と疲れのなかで口をついて出てくる言葉は、バカにするな、命を奪うな。

怒りと悲しみのなかで、静かに立ち上がっています。国と東電の責任を問い、原発はいらないと声をあげています。

私たちは静かに怒りを燃やす東北の鬼です。どうぞ、苦悩と責任と希望を分かち合い、

つなごう。注目してください。

どこへでも出かけます。そして、ふくしまを語ります。

ふくしまを忘れないでください。隣の人と手をつないでください。

涙と怒りを話し合おう、その温もりを日本中に、世界中に広げよう。

荷物が途方もなく重く、ほがらかに生き延びていきましよう。